

母性看護学実習Ⅱ	3年・後期	1単位1週間	教授 堀金 幸栄 他
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33210813

1. 授業のねらい・概要

周産期にある母子とその家族を対象に、個々の健康ニーズを把握し、健康の保持増進、健康問題や健康上問題を解決する援助方法を学び、母性看護の基礎的能力を養う。

2. 学修の到達目標

1. 褥婦の妊娠、分娩期の健康状態を評価し、必要な援助が理解できる。
2. 褥婦の心身の変化と母親への適応過程を理解できる。
3. 新生児の胎外生活への適応過程を理解できる。
4. 退院後の生活について理解できる。
5. 専門職としての態度を養うことができる。

3. 授業の進め方

実習要項参照

4. 授業計画（実習/実技）

1. 実習期間：令和6年1月～3月の間で1週間の実習を行う。
2. 実習施設：横田マタニティーホスピタル
3. 実習内容：実習要項参照
4. 実習前学習：知識・技術確認試験を実施する。
5. 実習後学習：実習での学びを実習記録にまとめる。

5. 成績評価の方法・基準

5分の4以上の出席を条件とし、実習状況・実習記録を合わせて80%、知識・技術確認試験20%で、総合的に評価する。ただし、実習と知識確認試験は、それぞれ60%以上得点すること。

6. テキスト・参考文献

教科書：①小林康江 他：ナーシンググラフィカ 母性看護学②母性看護の実践（最新版），メディカ出版。

②荒木奈緒 他：ナーシンググラフィカ 母性看護学③母性看護技術（最新版），メディカ出版。
参考書：講義で配布した資料，その他の参考文献は実習中に随時紹介する。

7. 準備学習に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な内容

事前学習として，産褥・新生児期に関する課題をポケットサイズのノートにまとめ学習しておくこと。
講義で配布した資料で基準値など覚えておくこと。

Google classroomの配信動画を繰り返し視聴して，必要な看護技術の手技を確実に覚えること。
臨地実習開始前までに，必要な看護技術を1時間以上練習して実習に臨むこと。

8. 受講上の留意事項

先修条件：母性看護学概論，母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱを履修していること。

9. 課題に対するフィードバックの方法

提出された事前学習課題は，教員が内容を確認して返却する。

内容の不備なものは再提出を求める。

ただし，実習記録物は返却しない。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり，修得できない場合進級不可となる。

11. 該当する本授業は，以下の実務経験を活かして実施される

医療機関における助産師としての実務経験を活かして，実習の指導を行う。